

2021年5月23日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第64巻第8号(通算3236号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう 週報

教会標語

かみさま ひと ととも
神様がすべての人と共におられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、
神の愛が私たちの心に注がれているからです。(ローマの信徒への手紙5:5)

ペンテコステ (聖霊降臨日) 礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

前奏 黙祷 (AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅))

招きの詞 ヨエル書 3章 1-2節

賛美歌『アイオナ共同体賛美歌集』「世の初め、鳥のように」(©JASRAC)

お祈り (交唱) (2頁をご参照ください) みんな

聖書 ヨハネによる福音書 14章 18-27節

賛美歌 21-290番「おどり出る姿で」(©JASRAC) と朗読

メッセージ 「見えない力によって生かされて」 牛田 匡 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ

賛美歌『こどもさんびか改訂版』34番「キリストのへいわ」(©塩田 泉)

聖餐 牛田 匡 牧師

賛美歌 21-56番「主よ、いのちのパンをさき」(©教団讚美歌委員会)

主の祈り

献げ物 (*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 牛田 匡 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

報告 (8頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 ヨエル書 3章 1-2節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1私は、すべての肉なる者にわが霊を注ぐ。

あなたがたの息子や娘は預言し

老人は夢を見、若者は幻を見る。

2その日、男女の奴隷にもわが霊を注ぐ。

ペンテコステのリタニー (交唱)

司式者 神さま、ペンテコステの日のように、

みんな 聖霊を風のように送り、教会を力づけてください。

司式者 神さま、初めの教会が誕生した日のように、

みんな 聖霊を炎のように送り、わたしたちを力づけてください。

司式者 戦争を続け、憎しみ合うこの世界に、

みんな 聖霊を助け主として送ってください。

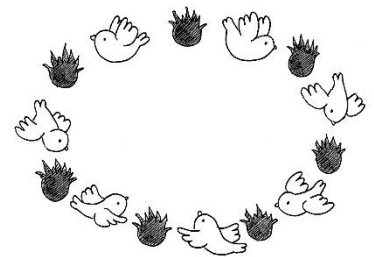
司式者 どう祈ればよいのか分からないとき、

みんな 聖霊を助け主として送ってください。

司式者 聖霊が働くと、何かが動き、変わっていきます。

みんな 聖霊が働くと、ちがっていることのすばらしさが輝きます。

一緒に 神さまのくださる聖霊を感謝します。



(出典：高寺幸子編『祈りのコンチェルト』2006年、46-47頁)

聖書 ヨハネによる福音書 14章 18-27節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

18私は、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。19しばらくすると、世はもう私を見なくなるが、あなたがたは私を見る。私が生きているので、あなたがたも生きることになる。20かの日には、私が父の内におり、あなたがたが私の内におり、私があるがたの内にいることが、あなたがたに分かる。21私の戒めを受け入れ、それを守る人は、私を愛する者である。私を愛する人は、私の父に愛される。私もその人を愛して、その人に私自身を現す。」22 イスカリオテでないほうのユダが、イエスに言った。「主よ、私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか。」23 イエスは答えて言われた。「私を愛する人は、私の言葉を守る。私の父はその人を愛され、父と私とはその人のところに行き、一緒に住む。24私を愛さない者は、私の言葉を守らない。あなたがたが聞いて

いる言葉は私のものではなく、私をお遣わしになった父のものである。

²⁵ 私は、あなたがたのもとにいる間、これらのことを話した。²⁶ しかし、弁護者、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、私が話したことをことごとく思い起こさせてくださる。²⁷ 私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

(脚注 a：直訳「私たちは」)

『讚美歌 21』 290 番「おどり出る姿で」と朗読

290 番 1 節「おどり出る姿で」

私たちは自由になりたいと願っています。でも自由を得ることがどれだけ難しいかということを知っています。「私に従って来なさい」、主イエスはこのように弟子たちを招かれました。主イエスの招きの言葉は、弟子たちに自由と解放の喜びを与えたのです。主に従うことは決して束縛された窮屈な道を歩むことではありません。全てのものから解放された、本当の自由への道なのです。

290 番 2 節「網を繕う」

「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私のもとに来なさい。休ませてあげよう」。主イエスはこのように語られました。重荷は誰にも代わってもらえません。自分自身で背負っていかねばなりません。けれども主イエスはこう言ってくださるのです、「私のもとに来なさい。あなたを休ませてあげるから」。人生の重荷に耐えかねている人々は、こうして慰められたのです。

290 番 3 節「きよい安息日に」

「なぜ、あの方が十字架にかからなければならないのか?」「神はなぜ、彼を助けてくださらないのか」「神は一体何をされているのだ!」怒りと嘆きと絶望の叫びがゴルゴタの丘に響きわたっています。神の子が苦しみを受けなければならない、それは何のため? それは……私たちのためだったのです。

290 番 4 節「暗い雲が光をとざし」

「イエス・キリストは絶望の中を死んでいかれた」、そこでこの物語が終わったわけではありません。一度死んだ神の子は、三日目の朝に引き起こされたのです。「え? まさかそんなことがあるはずがない」、私たちはそう考えてしまいます。けれども、聖書は「主は本当に死から引き起こされた」と伝えてい

ます。この、不思議な出来事の中に、髪は最も大切なメッセージを託されたのです。神の子は死の力を打ち破ったのです。そして神はこう言われるのです。「あなたたちはもう、死を恐れなくていい」。

290 番 5 節「重い墓石をもけやぶり」

復活されたイエス・キリストは、天の父のもとに移られました。弟子たちは取り残されてしまったと思い、不安になりました。心細くなっている弟子たちには、ただ主イエスの言葉だけが残されています。それは「約束のものを待ちなさい」という言葉です。約束された聖霊を待つことだけが、彼らの出来る唯一のことだったのです。

(参照：「ペンテコステの礼拝 聖霊の賜物を受けて」『礼拝と音楽』臨時増刊 2001 年, 70-72 頁)

聖書 使徒言行録 2 章 1-13 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹五旬祭ごじゅんさいの日が来て、皆が同じ場所に集まっていると、²突然、激しい風が吹いて来るような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。³そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。⁴すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話した。

⁵さて、エルサレムには天下のあらゆる国出身の信仰のあついで ^b人々が住んでいたが、⁶この物音に大勢の人が集まって来た。そして、誰もが、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられた。⁷人々は驚き怪しんで言った。「見ろ、話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。⁸どうして、それぞれが生まれ故郷の言葉を聞くのだろうか。⁹私たちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者があり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、¹⁰フリギア、パンフィリア、エジプト、リビアのキレネ側の地方に住む者もいる。また、滞在中のローマ人、¹¹ユダヤ人や改宗者、クレタ人やアラビア人もいるのに、彼らが私たちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」¹²人々は皆驚き、戸惑い、「一体、これはどういうことなのか」と互いに言った。¹³しかし、「あの人たちは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、^{あざけ}嘲る者もいた。

(脚注 b：異本による。ギリシャ語底本では「ユダヤ人」)

平和のあいさつ

(先導者)

イエス・キリストの言葉。

「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、きょうだい自分が
恨みを抱いていることをそこで思い出したなら、その供え物
を祭壇の前に置き、まず行って、きょうだいと仲直りをし、
それから帰って来て、供え物を献げなさい。」(マタイ 5:23-24)

このイエス・キリストの教えに従って、パンとぶどう酒の献げ物
をする前に、互いに「平和のあいさつ」を交わして、和解とゆるしを
確かめ合いましょう。

(席から立てる人は移動して、お互いに「平和がありますように」「神様
の恵みがありますように」などの言葉を語りながら、平和のあいさつ
を交わしましょう。ウイルス感染予防のために握手はお控えください)

主の祈り

(先導者)

私たちはみな神様の子どもです。神様に信頼して、
イエス様が教えられたといわれるお祈りを、共に祈りましょう。
それぞれの方がお祈りしやすい言葉で、お祈りください。

(以下、みんなで)

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおおり、

地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を

今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしくください。

わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

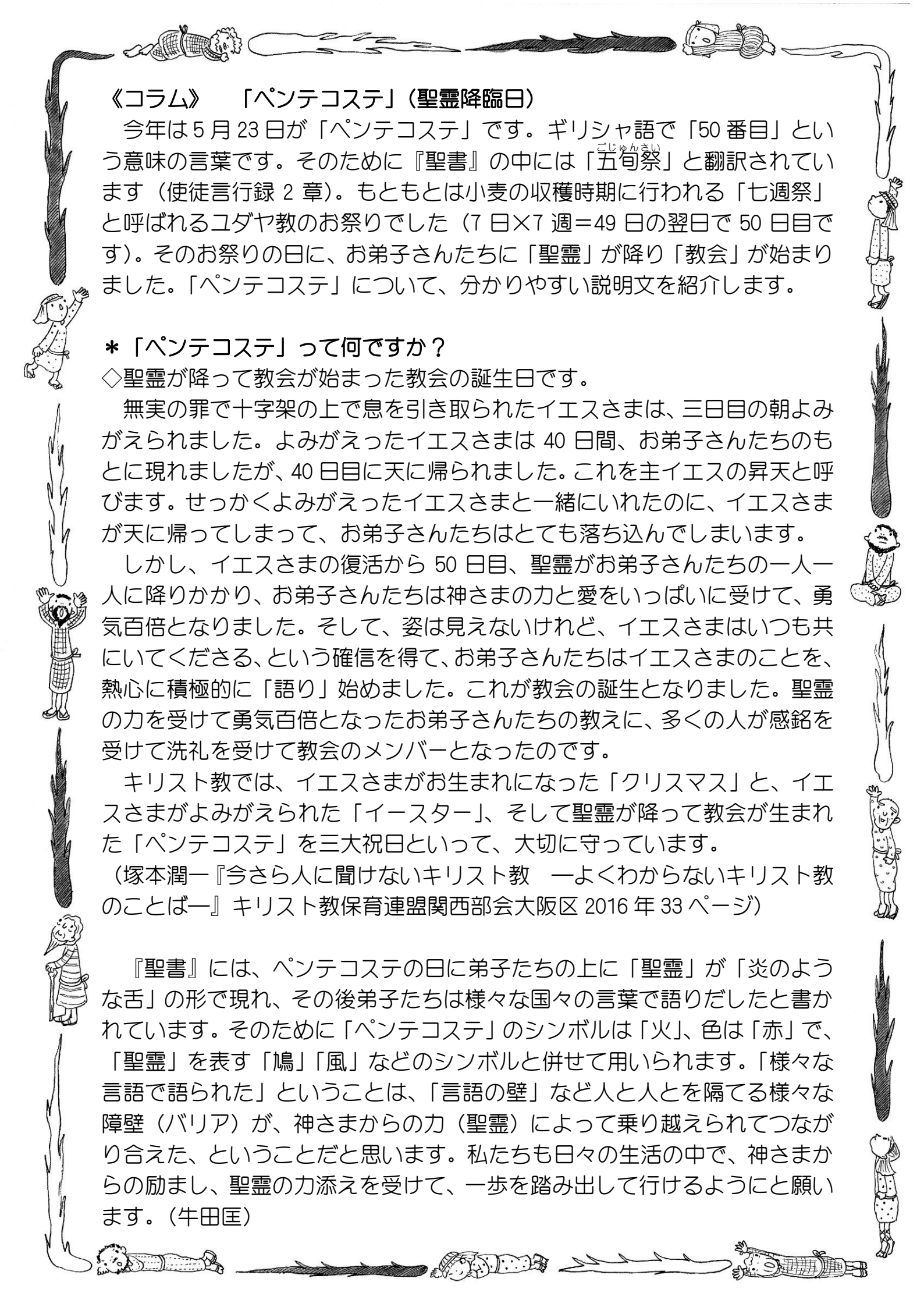
悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。

アーメン。

(日本聖公会・カトリック教会 共同訳)





《コラム》 「ペンテコステ」(聖霊降臨日)

今年5月23日が「ペンテコステ」です。ギリシャ語で「50番目」という意味の言葉です。そのために『聖書』の中には「五旬祭」と翻訳されています(使徒言行録2章)。もともとは小麦の収穫時期に行われる「七週祭」と呼ばれるユダヤ教のお祭りでした(7日×7週=49日の翌日で50日目です)。そのお祭りの日に、お弟子さんたちに「聖霊」が降り「教会」が始まりました。「ペンテコステ」について、分かりやすい説明文を紹介します。

* 「ペンテコステ」って何ですか？

◇聖霊が降って教会が始まった教会の誕生日です。

無実の罪で十字架の上で息を引き取られたイエスさまは、三日目の朝よみがえられました。よみがえったイエスさまは40日間、お弟子さんたちのもとに現れましたが、40日目に天に帰られました。これを主イエスの昇天と呼びます。せっかくよみがえったイエスさまと一緒にいたのに、イエスさまが天に帰ってしまって、お弟子さんたちはとても落ち込んでしまいます。

しかし、イエスさまの復活から50日目、聖霊がお弟子さんたちの一人一人に降りかかり、お弟子さんたちは神さまの力と愛をいっぱいを受けて、勇気百倍となりました。そして、姿は見えないけれど、イエスさまはいつも共にいてくださる、という確信を得て、お弟子さんたちはイエスさまのことを、熱心に積極的に「語り」始めました。これが教会の誕生となりました。聖霊の力を受けて勇気百倍となったお弟子さんたちの教えに、多くの人が感銘を受けて洗礼を受けて教会のメンバーとなったのです。

キリスト教では、イエスさまがお生まれになった「クリスマス」と、イエスさまがよみがえられた「イースター」、そして聖霊が降って教会が生まれた「ペンテコステ」を三大祝日といって、大切に守っています。

(塚本潤一『今さら人に聞けないキリスト教 一よくわからないキリスト教のことば一』キリスト教保育連盟関西西部会大阪区2016年33ページ)

『聖書』には、ペンテコステの日に弟子たちの上に「聖霊」が「炎のような舌」の形で現れ、その後弟子たちは様々な国々の言葉で語りだしたと書かれています。そのために「ペンテコステ」のシンボルは「火」、色は「赤」で、「聖霊」を表す「鳩」「風」などのシンボルと併せて用いられます。「様々な言語で語られた」ということは、「言語の壁」など人と人とを隔てる様々な障壁(バリア)が、神さまからの力(聖霊)によって乗り越えられてつながり合えた、ということだと思います。私たちも日々の生活の中で、神さまからの励まし、聖霊の力添えを受けて、一步を踏み出して行けるようにと願います。(牛田匡)

メッセージ「真実から目を逸らさない」より

聖書：ルカによる福音書 24章36-53節

今回の聖書は、イエス様が天に上げられる「キリストの昇天」と呼ばれているお話でした。キリスト教絵画には、雲に乗って空に昇っていく絵がありますので、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。その昇天の前の場面では、弟子たちが集まっている所に、突然イエス様が現れ、驚き^{おび}怯えている弟子たちに「私は幽霊ではない」と言って、差し出された魚を食べたと記されています。これらの表現は、イエス様の復活、死からの引き起こしは、本当の出来事、真実だということを、印象付けるための表現だろうと思います。そしてその後、イエス様は天に上げられていきましたが、そもそも「天」とは、空の^{かなた}彼方ではなく、神様がおられ生きて働いておられる所です。ですから、イエス様が「天に上げられた」というのは、空高くに浮かび上がって行ったということではなく、「神様が働かれる場所へと移られた」ということなのでしょう。そのようにして、復活のキリストは弟子たちの前から姿を消しました。

しかし、彼らはイエス様を見失って意気消沈したのではなく、むしろ今も生きて働き続けている神様と共に、喜びに満ちてそこから歩み出して行きました。もしも、イエス様が姿を消さなかったら、彼らはイエス様を自分たちの正義を証明するための「証拠」の^そようにして利用し、独り占めしてしまったのではないのでしょうか。真実から目を逸らさない……。十字架で殺されたイエス様は、死から引き起こされ、魚を食べて見せるほどに、確かに復活された。そしてまた、そのイエス様は「天」へと移られ、その姿は見えなくなった。そして今も「聖霊」「力」となって、私たち全ての人たちの間に共に生きて、働いて下さっている。それが「真実」なのではないのでしょうか。

さて、現代を生きている私たちの身の回りでは、それこそ目を逸らしたくなるような出来事ばかりがあります。多くの人々が苦しい状況に置かれ、多くの涙と血が流され、命が脅かされています。そのような現実を見ると、無力な私たちはそれらから目を逸らし、責任逃れや言い訳をしたくもなります。しかし、真実に目を向けることなしには、真の歩みは始まりません。嘘の上に嘘をいくら積み重ねても、それは真実にはなりません。復活され天に移られたイエス様は、全ての人、全てのものと共におられます。私たちは出来ることの限られた、取るに足らない無力な一人一人ですが、そんな私たちであっても、神様は私たちに命と力を与えて用いられます。全ての命と正義が守られる世界が実現されるために、神様の御心が実現する世界が作られるために、私たちはここから歩み出して行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 (5月16日)

礼拝出席 大人4名 (中継動画再生数15回) 献金 大人5,000円 感謝
 聖書を読む会 出席4名

◎次週 2021年5月30日(日) 聖霊降臨節第2主日(三位一体主日) 礼拝

招きの詞 イザヤ書 42章5節

聖書 マタイによる福音書 11章25-30節

メッセージ 「その^{くびき}軛は無理がなく、その荷は軽い」 牛田匡牧師

賛美歌 21-432番(©P.D.)、21-493番(©教団出版局)、21-564番(©JASRAC)

礼拝はインターネットで中継配信いたします。

礼拝の中で、5月までの誕生日者の祝福式を行います。

◎お知らせ

- ・本日の礼拝後には、新型コロナウイルス感染予防のために「愛餐会(昼食会)」はありません。ですが、感染予防に留意しながら、釜ヶ崎・いこい食堂支援のための「おにぎり作り」は予定通り行ってお届けいたします。どうぞご参加ください。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、大阪府には「緊急事態宣言」が出されています(5月31日まで)。ご自身が感染しないためにも、また他人に感染させないためにも、そしてまた医療崩壊の現状を悪化させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。教会では換気やマスク着用など感染予防に留意しながら礼拝をいたしますが、教会にいらっしゃる際には、ご自身の体調にご注意いただき、検温、手指消毒とマスク着用、お隣の方との間隔をあけた着席をお願いいたします。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。またご希望の方にはご自宅までお届けいたします。ご遠慮なくお知らせください。
- ・5月30日(月)16:00~18:00に、オンライン講演会「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと ~福島からのメッセージ」が開催されます(日本聖公会正義と平和委員会原発問題プロジェクト主催)。講師は昨年2月にも当教会で講演をしてくださった片岡輝美さんです。YouTube公開ライブ配信で参加費は無料です。下記のURLか、QRコードより、パスワードを入力してご視聴ください。

<http://soukai65live.livedoor.blog/archives/9272069.html>
 パスワード: peacebewithyou



◎ 次週以降の行事予定

	会場	メッセージ	行事
5/30	久宝寺地区 久宝まぶねこども園 (新園舎・教会堂)	牛田牧師	誕生者祝福式
6/6		岡嶋伝道師	ユウカリスト・教会を考える会
6/13		牛田牧師	教会創立記念礼拝・花の日子どもの日礼拝 (礼拝後の愛餐会については未定です)
6/20		牛田牧師	(河内地区婦人会?)・聖書を読む会?

日本聖公会「原発のない世界を求める週間」(2021/6/6-6/12) 企画

オンラインフォーラム「原発はやめようよ」公開プログラム

日時: 2021年5月30日(日) 15:30-18:00

15:30 開会の祈り・メッセージ (武藤謙一 首席主教)
 16:00 講演: 「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと~福島からのメッセージ」
 講師: 片岡 輝美 さん

参加費: 無 料

参加方法: 公開プログラム YouTube (ライブ配信) をご覧ください。
 ※以下のブログにアクセスしていただき、リンクされている YouTube (ライブ配信) をご覧ください。
<http://soukai65live.livedoor.blog/archives/9272069.html>
 パスワード: peacebewithyou

日本聖公会は、福島・原発を大規模な警戒態勢と位置づけ、様々な取り組みを続けてきました。2005年の第45(定期)総会では、「地球環境のために来る日(6月5日)世界環境デー(原発の休日)」が採択され、「原発のない世界を求める週間」を定めることとなりました。その趣意に基づいて、原発問題のオンラインフォーラム「原発はやめようよ」を開催いたします。5月30日(日)15:30-18:00(祝)と6月6日(日)15:30-18:00(祝)の2回にわたるプログラムを企画しています。親子が英語で唱へる讃歌を聞きながら、教団のネットワーキングを築き、共に原発と向き合いながら原発をなくすための活動をしていきたいと思います。オンラインプログラムということで参加費は無料とさせていただきますが、多くのみなさまにご参加いただけるように、前日の「開会礼拝」と「講演」の部分を公開プログラムといたしましたので、ぜひご参加ください。

主催: 日本聖公会正義と平和委員会 原発問題プロジェクト